



令和5年度大山小学校 学校だより

2024年3月7日

おおやま ゆめ 通信 第10号

(発行者) 校長 齋藤 和久
Tel:68-2929 Fax:48-3301

ホームページ <https://ohtama.fcs.ed.jp/> 大山小学校

題字:「ゆめ」渡辺光太郎先生

子どもたちの行動力

登校日も残すところあと10日です。子どもたちは卒業・進級に向けて、まとめの時期を一生懸命に、大切に過ごしています。そんな中、ハッとさせられたことがあったので紹介させていただきます。

3学期は、切ない話題からのスタートとなりました。元日の夜に能登地方で起こった大地震は子どもたちにとっても衝撃的だったようで、始業式で校長がその話に触れると真剣な表情で聞いてくれました。各学級でも担任から話があり、「大玉村に住んでいる私たちができることはないのか？」と子どもたちはそれぞれ考えたようです。「募金を集めて能登の方たちに役立ててもらおう！」という意見が挙がり、そこからの動きはとても早かったです。代表委員会のメンバーが中心となってポスターや募金箱を作り、毎朝の呼びかけが始まりました。「お願いします!」「ありがとうございました!」というさわやかな声が校内のあちらこちらに響き渡り、募金活動はすぐに軌道に乗りました。ある女子児童が、大人でも出すことをためらうような金額を募金したと聞き、校長が直接本人に尋ねました。「自分のお小遣いから出したので大丈夫です。役立ててもらいたいです。」とサラッと答えていました。「あなたの優しい気持ちは能登の方たちにきっと届くよ!」と声をかけると、少し恥ずかしそうにしていました。

募金を呼びかける方もする方も思いをもって取り組んでいることを知り、子どもたちの行動力に感心させられました。子どもたちの豊かな発想力と行動力を信じてもっと任せていいのだと、これまでの関わり方を反省しました。先日、集まった募金「115,009円」を日本赤十字社に届けてくださるよう村長さんをお願いしてきました。そんなにたくさん集まったのかと村長さんは驚いていましたが、大山小の子どもたちが優しく成長していることを心から喜んでくださいました。



<職員室で募金を呼びかける児童>



<代表の6年生が村長さんに手渡しました>

ちょっといい話

村長さんを訪ねた時、素敵なお話を伺いました。「関東あだたら大玉の会」という団体があり、先日、東京で会合があったそうです。村長さんは「皆さんには故郷があります。万が一、災害に見舞われるようなことがあれば必ず助けますから、遠慮なく大玉村に戻ってきてください。」とお話をされたことを教えてくださいました。故郷を離れた方々のためにも大玉村を守っていきたいと思いました。

お詫び

学校だよりの発行が滞っておりまして大変申し訳ありませんでした。次号は近日中に発行しますので、ぜひご期待ください。